

# 海員時事

千足耕一（東京海洋大学海洋政策文化学科・教授）

海で活動する、  
働く人々を対象に研究・交流する

## — 日本海洋人間学会の歩みを紹介 —

海での活動を対象とする学術団体には、様々な学会や研究会等があります。例えば、海洋学の進歩普及を図ることを目的とした日本海洋学会、航海に関する学術を考究しその向上を図ることを目的とした日本航海学会、水産学に関する研究の進歩普及を図ることを目的とした日本水産学会、船舶工学および海洋工学を考究する日本海洋船舶工学会などがあり、海洋や船舶、水産などに関連するキーワードを含んだ学術研究が進められています。

このようななか、「日本海洋人間学会：Japan Society for Maritime Activity（略称：JSMTA）」は、海洋環境で活動を行う人たちに對しての健康の維持増進、安全の確保、競技力向上、海を通じてのよりよい教育プログラムの提供等を目指した学会として、2012年4月1日に設立された比較的新しい学術団体です。もう少し柔らかに表

現すると、海洋で活動する主体である「人間」に焦点をあて、海洋と人間の関係を追究していこうとする学術団体です。第1回大会特別講演において当時の東京海洋大学学長岡本信明氏は「様々な活動を、人に始まり人に帰結するとする観点から、人間にフォーカスを当てている点は、今までの海洋分野の学会にはなく、その取り組みには大いなる期待が集まっている」と述べられました。その後も、毎年9月に東京海洋大学品川キャンパスにおいて学会大会を開催し、様々なテーマの講演やシンポジウムを開催するとともに、研究成果発表、懇親会での交流を図ってきました。また、学術誌を発刊し、日本学術会議の一員としても認定されるに至っています。学会大会の歩み（第1回～第6回）は、表に示した通りです。

おおよそのメインテーマについては、「安全」、「教育」、「海洋労働

環境」、「海洋人材育成」、「学びの場」、「海洋人材確保」といったように変遷してきており、海洋労働および海洋での活動における安全、教育、人材養成等について、基調講演とシンポジウムを通して理解を深め、議論してきました。その成果は、学会誌にて公開していますので、お時間が許せば是非ともご覧いただきたいと思います（URLは[http://www.jsmta.jp/?page\\_id=703](http://www.jsmta.jp/?page_id=703)）。

内容を少しだけご紹介すると、例えば、第1回大会において、漆谷伸介氏（国土交通省運輸安全委員会）は、船舶関連の事故調査やその



学会大会の様子



懇親会の一コマ(神田一郎会長のあいさつ)

れました寺田美夏船長は「内航船における我が国初となる女性管理職の登用」ということに関連して、その事例が平成28年海洋立国推進功労者表彰を受賞したことで有名です。

また、第4回大会では、山本勝氏(海洋会会長)が、海洋開発の事業化に向けた人材育成について、若者が新たな分野へ果敢に挑戦してほしいとの期待を述べました。

第6回大会では、「海洋分野における若年層育成のあり方」をテーマとして小栗謙司氏(日本かつお・ま

原因分析を行い、事故防止の啓発資料を作成していることを報告しています。阪根靖彦氏(航海訓練所安全推進室)はリスクアセスメントやヒヤリハットの分析などについての有効性を述べています。七呂光雄氏(全日本船舶職員協会)は、船内の安全対策と安全教育のレベルを上げていく必要性に言及しています。

第3回大会シンポジウム「新しい時代の海洋労働環境」において三原康作氏は、船員教育において「やる気」を重視し、船乗りとしては、「辛抱」「素直さ」「協調性」が重要であると述べています。同時に講演さ

ぐる漁業協同組合)が遠洋かつお・まぐろ漁業における新規就業者確保に係る取り組み…漁船乗組員確保養成プロジェクトが立ち上げられ、漁船漁業界が一体となって船員確保の取り組みを開始したこと等について紹介しました。脇修一氏(株式会社商船三井)は、外航船社における人材育成のなかで、インターンシップの取り組みが重要であると述べています。さらに、立石尚登氏(NSユニテッド内航海運株式会社)は、内航海運会社における若手船員の人材育成について、海上勤務における特殊性、特に船内での集団生活に慣れること

や、コミュニケーション能力を高めることが重要と発言しています。日本海洋人間学会は140名ほどの会員で構成される比較的小さな学会ではありますが、このように直接的に海員に関連した講演等を実施してきており、今後もこのような取り組みを継続していく予定です。学会の取り組みに興味を持っていただいた皆様においては、是非とも学会大会にご出席いただきたいと思えます。また、学会へは、読者の皆様からのご指導やご鞭撻をいただけたら幸いです。



第7回も同じ会場を予定しています。



日本学術会議協力学術研究団体

第7回学会大会 2018.9.22-23

URL: [http://7th2018.jsmta.jp/?page\\_id=7](http://7th2018.jsmta.jp/?page_id=7)

※基調講演及びシンポジウムは参加料無料です。

# 表 日本海洋人間学会における基調講演・シンポジウムのタイトル (第1回～第6回)

## 第6回大会

特別	第6回学会大会基調講演	海洋教育の方向性 一求められる海洋人材を育む教材のあり方の展望	高橋 洋子 (文部科学省・主任教科書調査官)
シンポジウム 1	「海洋人材確保の方向性」	幼児期からの海辺の体験活動 ー 子どもたちがうみとともだちになれるように ー	齋藤 雄 (国立若狭湾青少年自然の家・企画指導専門員)
		小学校における海辺の体験活動への取り組み	小正 和彦 (横浜市教育委員会事務局・首席指導主事)
		高等学校(水産高校)における人材育成 ー 自校の取組を主体として ー	丸崎 敏夫 (愛知県立三谷水産高等学校・校長)
シンポジウム 2	「海洋分野における若年層育成のあり方」	水産系企業の若年船員の育成	小栗 謙司 (日本かつお・まぐろ漁業協同組合・指導部次長)
		外航船社における人材育成	脇 修一 (株式会社商船三井 人事部 人事第二グループ・グループリーダー)
		内航海運会社における若手船員の人材育成	立石 尚登 (NSユナイテッド内航海運株式会社・取締役総務部長)

## 第5回大会

特別	第5回学会大会基調講演	海川森をつなぐ学びの場	内野 加奈子 (NPO法人土佐山アカデミー)
シンポジウム 1	「ライフセービング活動におけるエビデンス」	パトロール活動におけるコンディショニングの実態	荒井 宏和 (流通経済大学)
		ライフセービングにおけるボードパドリング技術 ー指導法を確立するためのエビデンスー	深山 元良 (城西国際大学)
		わが国の海水浴場における溺水と傷病の実態	石川 仁壽 (日本ライフセービング協会)
シンポジウム 2	「海洋人材育成の方向性」	海上物流を支える海技者育成のための新組織発足	久門 明人 (海技教育機構)
		水産大学校海技教育の現状と練習船「天國丸」建造について	一瀬 統亮 (水産研究・教育機構)

## 第4回大会

特別	第4回学会大会基調講演	海洋人材育成のあり方 ー日本人海技者の新たな挑戦ー	山本 勝 (海洋会)
シンポジウム 1	「海洋人材育成のあり方」	有人潜水調査船「しんかい2000」が残したもの	田代 省三 (海洋研究開発機構)
		漁業練習船の実習の歴史とこれから	林 敏史 (東京海洋大学)
		漁船船主としての思い	金澤 俊明 (金沢漁業 (株))

## 第3回大会

特別	第3回学会大会基調講演	社会的共通資本の考え方	関宮 昭介 (京都大学)
シンポジウム 1	「新しい時代の海洋労働環境」	船会社における人材育成	三原 康作、寺田 実賢 (三原汽船 (株))
		被災地気仙沼水産復興の機、労働負担軽減と漁船の労働環境	阿部 泰浩 (株) 阿部長商店)
シンポジウム 2	「海女の文化と労働環境」	海女の衰退を潜水科学、ジェンダーの視点より実証的に研究し、再生の道を探る	山本 茂紀、山本 和子 (愛知大学)
		海女の観光商品化を巡る諸問題 ー千葉県御宿における〈観光海女〉の事例から	小野 修三 (東京海洋大学)
		潜水漁業実態および健康状態から推察した、海士・海女潜水の安全性および改善策	藤本 浩一、山川 純、千足 耕一 (東京海洋大学)

## 第2回大会

特別	第2回学会大会基調講演	森と海の教育カー大震災に学ぶー	畠山 恒樹 (NPO法人森は海の恋人)
シンポジウム 1	「漁業と教育」	新しい船員災害防止の施策 ー第10次船員災害防止基本計画	松澤 芳春 (国土交通省海部局船員政策課)
		高校の漁業教育	高石 由紀子 (鳥取県立境港総合技術高等学校)
		大学の漁業教育	田中 栄次 (東京海洋大学)
		安全な漁業労働環境確保事業について	久宗 周二 (高崎経済大学)
シンポジウム 2	「船と教育」	帆船は人間教育の道場	守田 明 (NPO法人日本セイルトレーニングスクール)
		練習船深江丸における海技教育と海事の啓発活動について	矢野 晋治 (神戸大学)
		海事普及活動と教育 ーステークホルダーの視点からー	赤嶺 正治 (大島商船高等専門学校)
シンポジウム 3	「マリンスポーツと教育」	臨海学校における遠泳教育の意義	矢野 正 (大阪女子短期大学)
		学校BLS教育への導入とファーストレスポンスの育成	小盛 力 (中央大学)
		サーフィンと教育 ー笑顔と自然の生涯学習ー	池谷 真一 (日本サーフアカデミー高等部)

## 第1回大会

特別	設立記念大会特別講演	日本海洋人間学会への期待	岡本 啓明 (東京海洋大学)
シンポジウム 1	「船と安全」	船舶事故の再発防止に向けて	漆谷 伸介 (運輸安全委員会)
		航海訓練所における安全対策	阪根 靖彦 (航海訓練所)
		船内における安全対策	七呂 光輝 (全日本船舶員協会)
シンポジウム 2	「水辺活動と安全に関する取り組み」	水の事故ゼロ運動の全国展開により水の事故を1件でも減らす	淵藤 卓男 (ウォーターセーフティニッポン)
		水辺の体験活動における安全講習会の報告	進藤 哲也 (国立青少年教育振興機構)
		海に学ぶ体験活動促進会等市民活動における安全への取り組み	海野 毅明 (NPO法人オーシャンファミリー)
シンポジウム 3	「漁業と安全」	漁業における労働安全の取り組み	久宗 周二 (高崎経済大学)
		漁船における作業評価と改善	高橋 秀行 (水産総合研究センター)
		漁港における労働安全の現状と課題	佐伯 公康 (水産総合研究センター)